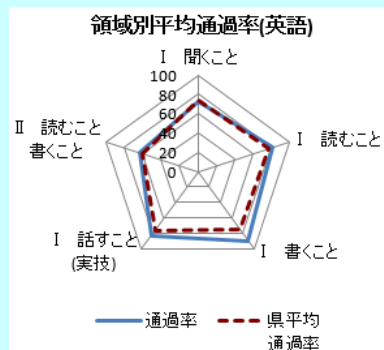


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 78.5%, 県 72.4%)

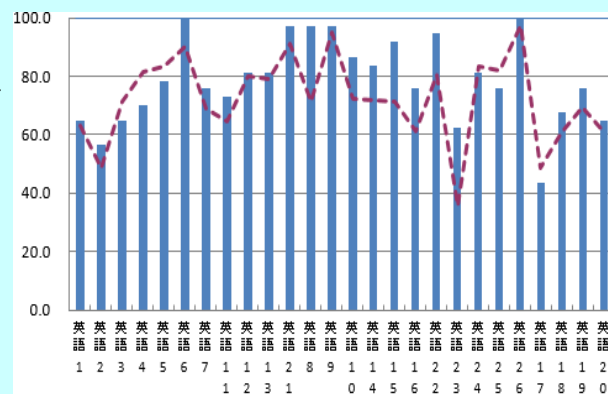
対県比

108.4%

領域別平均通過率



設問Iの平均通過率



本年度の結果について

- 英語の結果においてタイプIは81.3%, タイプIIは62.8%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については概ね定着が図られていると考えられるが、一方では、タイプIIの根拠となる英文の読み取りの問題が43.2%と低い。読み取りの問題を意識的に与え、解く際に、根拠となる文に線を引くことを習慣づけさせていく必要がある。
- 昨年度は、タイプIは79.0%だったが、本年度は、81.3%と、2.3ポイント上昇した。タイプIIも昨年度57.7%であったのに対し、62.8%と5.11ポイント上昇した。昨年度は、特に書くこと読むことの領域で、適切な質問を考え、英文を書くことや根拠となる英文の読み取りに対して課題があり、5W1Hを使って必要な情報を得る練習をもう一度復習し、答えから問いを導き出す活動を意識的に仕組んだ結果32.3%から67.6%と35.3ポイントアップすることができた。根拠となる文の読み取りに対しては依然として課題があることがわかった。

重点課題

【課題1】(書くこと読むこと) (62.8%)

▼根拠となる英文の読み取りやまとまりのある一貫した文章を書くことに対して課題がある。

(17番 通過率 43.2% 県平均 48.4%)

(20番 通過率 64.9% 県平均 61.1%)

語順の理解が不十分のため、文のどの位置にどんな情報があるかが理解できていないと考えられる。

【課題2】(リスニング) (72.5%)

▼英語の問いかけに対する適切な応答をすることに課題がある。

(2番 通過率 56.8% 県平均 48.7%)

「Can I ~?」に対しては、「can」で答えるというパターンでとらえている生徒が35.1%いる。

場の状況を読み取れていないことに課題がある。

指導上の課題の改善方法 (現在扱っている単元において)

【課題1】目標値 (65%) 実施後数値 (%)

◎長文の内容理解を英問英答で行う際に、根拠となる文に線を引かせ、発表させることを通して根拠となる英文を読み取る力をつけていく。

◎句型を導入する際には、語順ドリルを繰り返し与え、語順を意識させていく。

◎長文を読み取る際には、情報の種類ごとに記号をつけながら読む習慣がつくよう継続して指導していく。

【課題2】目標値 (75%) 実施後数値 (%)

◎新出の句型を使った短い対話を暗記させるようにペア活動を仕組む。また、授業の始めに答えを提示し、その答えとなる疑問文を考え対話する活動を仕組むと同時にその対話がされる状況を考えさせることで、適切な応答ができるようにする。

◎スキットの単元では、ALTとスキットを演じるパフォーマンステストを実施し、既習事項の活用を増やすことでリスニング力アップを図る。

| 「基礎・基本」定着状況調査 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------------|----------------------------------|----|---|-----------------------|---|--------------|-----------------|--------------|-------------------------|
| 学年・方法 | | | 1. 2年復習テスト | 1~3年・中間テスト(タイプII対応問題) | | 2年・H28「基礎基本」 | 1. 2年標準学力調査(活用) | 1年・H29「基礎基本」 | 1. 2年・学年末テスト(タイプII対応問題) |
| 目標値 | | | 50% | 65% | | タイプII 70% | 68% | 70% | 75% |
| 取組の重点 | 語順ドリルを繰り返し与え、語順を意識させる。基本文を暗記させる。 | | 本文の内容について5W1Hで質問する学習。根拠となる文に線を引かせ家庭学習で問いと答えの文のまとめをさせる | | ペアで本文の内容について発展的な質問をする1分間チャットをする学習。家庭学習として1分間チャットを文章化させる | | | | |